

新燃岳噴煙組成

噴煙の $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ モル比の低下が観測された。

この日の低下は、噴気温度の低下もしくは平衡圧力の増加により生じ得る。

5月18日の比較的高い CO_2/SO_2 比は、高圧での脱ガスとは整合的であるが、他の成分比の変動が不明であり、結論は出来ない。

無人飛行機に搭載した Multi-GAS センサーによる噴煙組成観測により、下記の火山ガス組成が推定された。

2011年3月15日： $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}=10$ 、 $\text{CO}_2/\text{SO}_2<10$

2011年5月18日： $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}=0.8$ 、 $\text{CO}_2/\text{SO}_2=8$

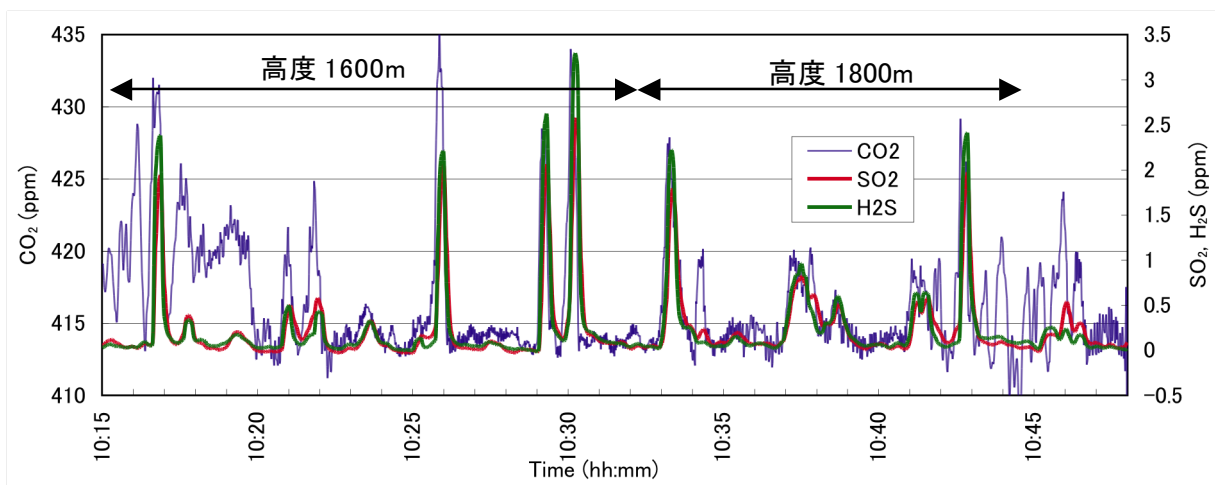


図1 5月18日の無人飛行機による噴煙観測結果

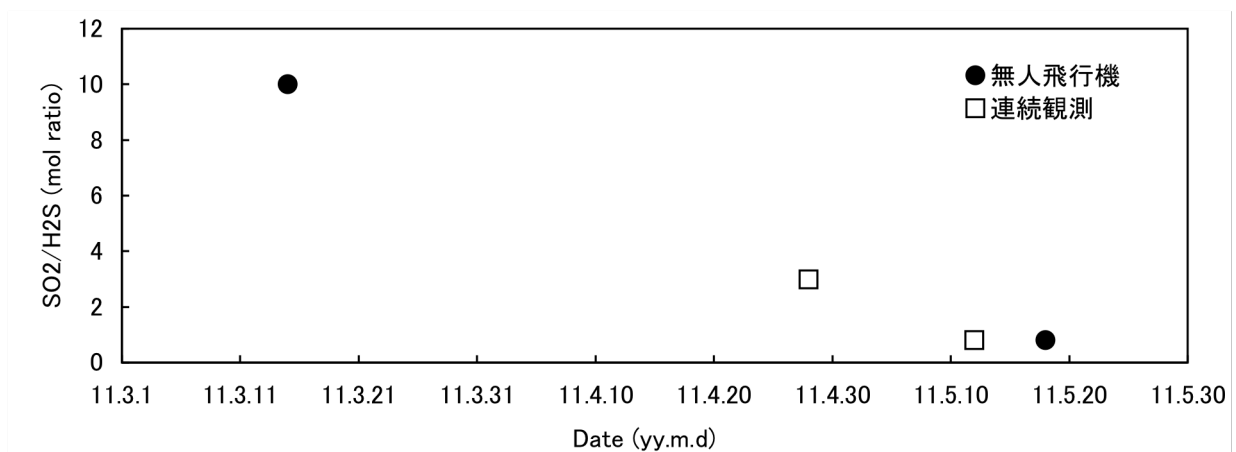


図2 噴煙 $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$ 変化。連続観測：高瀬川第5砂防ダム脇（新燃岳南東4km）に設置した自立型連続噴煙観測装置による結果。